日本の大学における生成系 AI に関するガイドラインの提示状況の調査および質評価

論文番号：M-3

テクノロジーデザイン講座

上西研究室　玉置俊介

近年，人工知能（Artificial Intelligence : AI）の発展により，生成系 AI と呼ばれる技術が急速に発展し，教育分野においても学生や教員が積極的に生成系 AI を活用する場面が増えている．一方で，生成系 AI の利用には，著作権の侵害，プライバシー情報の漏洩などのリスクがある．こうしたリスクを防ぐため，日本中の大学で生成系 AI に関するガイドラインが提示されている．しかし，そのガイドラインの質を検証する仕組みは整備されておらず，内容や文章量には大きなばらつきが見られるのが実情である．

本研究は，日本の大学が提示する生成系 AI に関するガイドラインを調査し，その質を客観的かつ定量的に評価する手法を提案することを目的として研究を行った．まず，大学生・大学院生を対象にしたアンケート調査により，ガイドラインを読むことがリスクの認識につながり，生成系 AI の倫理的な利用につながることを確認し，ガイドラインの質（具体性・明確性）の重要性を明らかにした．また，大学公式サイト上で公表された生成系 AI に関するガイドラインを収集・分析した結果，リスク説明を重視する一方で背景説明や将来方針を十分に示していない例が多く，文章構成や文量の面で大学間に大きな差異があることを確認した．こうした差異を可視化するため，医療分野の診療ガイドライン評価ツール「AGREE Ⅱ」を参考にしつつ，生成系 AI に関するガイドラインに合わせた評価ツールを作成した．実際に 5 つの大学ガイドラインに対して複数名の評価者が作成した評価ツールによって採点を行うことによって，ガイドラインの不足点や改善点を客観的かつ定量的に確認することができ，作成した評価ツールの有用性を確認できた．一方で，今後の課題として，評価者間の解釈差によるばらつきも見られた．

以上の結果より，本研究で目的としていた，ガイドラインの質の定量化が概ね達成された．本研究で作成した評価ツールは大学のガイドライン改善を促す指標となりうるが，さらに精緻なマニュアル整備による評価の一貫性確保が今後の課題であると考えられる．